

⑦ 様々な実際例

想像力を奪うな！！

★ 課題のおさらい

視点の複数化とは、読者に先を読みたいと思わせるテクニックでもある。  
今回の課題で、それを実感してほしい。

★ これまでに話した手法の、実際例をいくつか紹介し、解説。

『市民ケーン』 オーソン・ウェルズ

映画史に残る名作を、今や誰もミステリーとは言わないが、たったひとつの  
謎＝キーワード (バラのつぼみ) を追う展開はまさしくミステリーそのもの。

『瓶詰めの地獄』 夢野久作

結末から発想された超短編技巧派ミステリーにして、悲しくも残酷な傑作。

『十二人の手紙』 井上ひさし

書簡体小説の白眉。

『復讐するは我にあり』 佐木隆三

複数の視点と語り (過去形)、証言による、連作形式の小説。

彼らの見た、聞いた、複雑極まりない連続殺人犯の像が描かれ、読者の頭の中  
中でも、どんどん想像がふくらむ。

斬新な群像ものの変形にして、傑作。

★ 読者の楽しみは、想像力、これに尽きる。

書き手としても、それを奪うような書き方をしては絶対にいけない。